

製品・サービス動向-国内

■ブイキューブとレノボ・ジャパン、テレビ会議ができるコミュニケーションブース「テレキューブ」を発売、また19社参加による働き方改革を加速する「テレキューブコンソーシアム」を設立



テレキューブ

(記者会見取材：8月1日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) とレノボ・ジャパン株式会社 (<http://www3.lenovo.com/jp/ja/>) (東京都千代田区) は、テレビ会議などのITサービスと防音性の高い空間スペースを統合したコミュニケーションブース「テレキューブ」を8月1日より提供開始する。また合わせて、テレキューブをはじめとしたICT社会インフラを構築していくことを目的とした「テレキューブコンソーシアム」 (<https://telecube.jp/>) の設立も発表された。

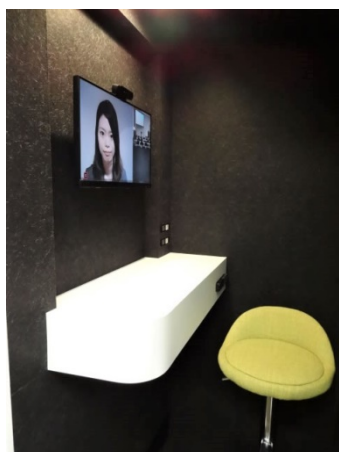
働き方改革が注目される中、従来の社内で働くことに加えて、テレワークに取り組んだり、あるいは、出

張先、カフェ、コワーキングスペース、サテライトオフィスなどにおいてモバイルワークしている人を昨今多く見かけるようになった。しかし、メールやチャットはやれても「話すことで伝わる」コミュニケーションを行える所がない、といった課題もあるという。

テレキューブは、「話すコミュニケーションの場が不足している」という課題解決に着目し、「ビジネスパーソンが安心して働けるセキュアなコミュニケーションスペース」をコンセプトに、セキュリティやプライバシーを配慮した空間を提供する電話ボックス型ブースとして開発された。防音性が高い設計になっており、このボックスの中で、テレビ会議などが安心して行える設備が用意されている。

今回発表されたモデルは2つある。まずは企業のオフィススペースでの設置を想定した「企業向けモデル」の提供を開始し、来年以降はモバイルワーカーなど一般向けのコミュニケーションブース/ワークスペースモデルの提供も予定されている。

テレキューブの本体(企業向け仕様)のサイズは底辺1.1m x 1.1mに対して高さは2.2mある。一方内部は1メートル四方の空間で高さは2mほどとなっている。内部には、レノボの「ThinkCentre M710q Tiny」の他、Webカメラ付きのディスプレイ、電源(2口)、USB給電(2口)、テーブル、椅子が設置されている。密閉された空間のため換気機能もある。テレキューブ本体の重量は296kg。気軽に運べる重さではないが、社内などの必要な個所に移動させることは可能となっている。



テレキューブの内部

ThinkCentre M710q Tiny には、「TELECUBE App」(企業向け・一般向け共通)、テレビ会議サービス「V-CUBE ミーティング」、コミュニケーションプラットフォーム「Skype for Business」がインストールされており、TELECUBE App から V-CUBE ミーティングもしくは Skype for Business を選択しテレビ会議を始められるようになっている。標準規格 (H.323/SIP) に準拠したハードウェアテレビ会議システムとの接続機能も提供される。

「テレキューブの内部は、圧迫感はなく、外部の音も聞こえないし内部の音も外には漏れない。周囲に気兼ねなくテレビ会議できるし、秘匿性のある情報も取り扱える。」(ブイキューブ)

一般向けの仕様では、上記のベース装備に加えて、冷暖房の空調設備、入退室管理・課金システム(電子マネー)、監視カメラ、防塵・防水(たとえばコンビニなど店舗の軒先や自販機の脇などに設置する場合)などを用意する予定だ。

「一般向けでは不特定多数が利用することが想定される。IT としてのセキュリティを提供するだけでなく、物理的にこの中で犯罪が起きないようにすることも配慮しながら、一般の人が安心して使えるスペースにしていこう。場を求めてさまようテレワーク難民を救いたい思いがある。」(ブイキューブ)

想定している設置場所としては、企業のオフィススペースに加えて、オフィスビル、サテライトオフィス、カフェ、商業施設、公共施設、鉄道の駅、空港など。

企業向けモデルの販売は 8 月 1 日から開始、また一般向けは年内を予定している。製品の顧客への提供は企業向けが 10 月から、一般向けが来年上半期からを予定している。費用については、企業向けは月額 59,800 円で提供する。一般向けはテレキューブの利用時間を基に課金する方法を検討している。

販売目標としては、年内は 100 台程度(売上 2 億円)を目標に室内型(企業向け)を中心に展開し、来年度は屋外型(一般向け)も併せて 500 台程度を見込んでいる。それ以降は防水型などを加え 2020 年には 5,000 台強の設置を実現したい考えだ。

さて、ブイキューブが描くテレキューブに対する将来像はテレビ会議用ブースの域にとどまらない。このテレキューブが広がってくると、コンテンツやサービスの提供が行える「ICT 社会インフラ」としての活用も期待できるという。この点はブイキューブが折に触れて今後の成長戦略の一環として掲げているところでもある。

「たとえば、遠隔医療行為が一例として挙げられる。血圧や体温といったデータを取りそれを基に医者との会話ができるといったサービスも可能になるだろう。その他さまざまな発展性が考えられる。それらを基にコミュニケーションができる安心安全なプラットフォーム/インフラとして進化させていきたい。」(ブイキューブ)

このようなことを実現する一環として、記者会見で

は、テレキューブコンソーシアムの設立も発表された。テレワークによって生産性が 1.6 倍あがるというデータがあるものの、テレワークの導入率については、アメリカが 85%、イギリスが 38%。それに対して日本は 11.5%という低い数値を示している。しかし、テレワークに対する関心は 50%以上という調査の結果もあるという。

「コンソーシアムはテレワークを当たり前の働き方として定着させていくのが狙いだ。まずはその取り掛かりのひとつとなるテレキューブ。だが、それ自体を広げていくのは我々だけではできない。さまざまな会社と連携をしながらこういった場を広げていくことで、日本の働き方を変えていきたい。」（ブイキューブ）

コンソーシアムでの活動は、参加企業のもつ知見・ノウハウ・サービスを組み合わせて、働き方改革を実現させる環境の整備を目指していく。その活動の第一弾として、今回発表されたテレキューブを共同で開発し、企業のオフィススペース、商業施設、公共施設、空港などの公共スペースへ設置し、そこで企業の生産性向上に貢献する場に何が必要か調査や分析を行っていく計画だ。

今回設立にあたり、理事長には、プラチナ構想ネットワーク会長で元第 28 代東京大学総長の小宮山 宏氏が、副理事長にはブイキューブの代表取締役社長の間下 直晃氏がそれぞれ就任した。



テレキューブコンソーシアム参加企業

参加企業（記者会見時）は、アイ・ティー・エクス株式会社、株式会社樹楽製作所、サイボウズ株式会社、

大日本印刷株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、一般社団法人日本テレワーク協会、日本マイクロソフト株式会社、株式会社ブイキューブ、森ビル株式会社、株式会社リクルートホールディングス、レノボ・ジャパン株式会社、株式会社岡村製作所、総合警備保障株式会社など 19 社。事務局はブイキューブ内。

「IoT、人工知能、バーチャルリアリティなど今後さまざまなものが出てくる。こういったところを積極的に活用しながら、最先端の働く場所の在り方についてコンソーシアム参加企業と議論しながら活動していきたいと考えている。」（ブイキューブ）

■エイネット：PC と iPad/iPhone をシームレスに利用できる Web 会議/テレビ会議システム FreshVoice 用 iOS クライアントアプリを公開

（8月1日）

エイネット株式会社 (<https://www.anets.co.jp/>)（東京都千代田区）は、テレビ会議/Web 会議システム「FreshVoice」の iOS デバイス (iPad/iPhone) 対応のクライアントアプリを大幅に機能強化し、8月1日より公開する。

FreshVoice は、従来より iPad/iPhone での利用をより快適なものにするため、iOS への最適化に力を入れてきた。iPad での「16 画面分割表示」や「高性能エンコード/デコードエンジンの採用」による滑らかな画面表示などを通じて、iOS デバイスでの会議参加を促進してきた。

今回その設計を一から見直し、単なる機能強化ではなく、PC と iOS デバイスの区別をなくし、どちらのクライアントを利用して電話帳呼出しやデスクトップ共有をはじめとするほとんどの機能を利用することができるようになった。

iPad や iPhone で会議に参加するには、会議室にあ

らかじめ参加者の iPad や iPhone を登録しておき、そのデバイスのみを利用する 경우가ほとんどという。

そこで FreshVoice の新 iOS クライアントアプリでは、会議招集者の PC の電話帳から iOS デバイスを自由に呼び出すことができるほか、iOS デバイスのユーザが招集者になることによって、iPhone 上の電話帳から会議を招集することさえ可能になった。

さらに iPad や iPhone の GPS 機能を利用して位置情報を取得し、着信機能で特定の場所にいるユーザを呼出したり、ライトを点灯して現場の周辺写真を撮影し、そのままファイル共有で会議資料として活用するなど、いままでのテレビ会議/Web 会議の概念を覆す使い方が可能になった。なお、屋外で利用する際、通信環境が変化した場合には、映像+音声、音声、チャットと自動的に切り替えることで会議の中断を防ぐことができる。

エイネットによると、従来の iPad/iPhone 対応をうたっているテレビ会議/Web 会議システムであっても、実際はさまざまな制約があり、使い勝手が良いとは言えなかった。今回発表した新アプリは、そういった常識を打ち破り、iPad/iPhone を本格的にテレビ会議/Web 会議の端末として利用できるようにした画期的な製品という。

ビジネス動向-国内

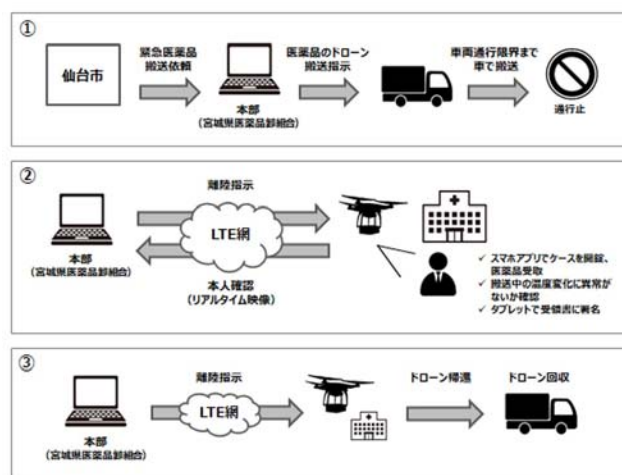
■ ブイキューブロボティクス：仙台市・NTT ドコモ・宮城県医薬品卸組合と共同で、ドローンを活用した緊急医薬品搬送の実証実験を実施

(7月13日)

株式会社ブイキューブロボティクス・ジャパン (<http://www.vc-robotics.com/>) (東京都渋谷区) は、仙台市 (<https://www.city.sendai.jp/>) (宮城県仙台市)、株式会社 NTT ドコモ (<https://www.nttdocomo.co.jp/>)

(東京都千代田区)、宮城県医薬品卸組合 (<http://www.jpwa.or.jp/>) (宮城県仙台市) と共同で、6月29日、ドローンを活用した「緊急医薬品搬送の実証実験」を実施した。

実証実験の目的は、災害発生時、橋梁の崩落等による交通網の寸断によって、陸路での医薬品の搬送が不可能となった状況を想定。緊急医薬品の搬送におけるドローン活用の有用性を確認するために実施。



実証実験の概要 (ブイキューブ)



LTE 回線を経由して遠隔制御された医薬品搭載ドローンと、医薬品受取時の本人確認の様子 (ブイキューブ)

実験場所は、西仙台病院隣接の広瀬川河川敷を往復

する形で実施。まず搬送依頼を受けた医薬品をドローンに搭載し、車両が通行できる限界の地点である宮城広瀬総合運動場まで車で搬送。その後、ドローンが、目的地である西仙台病院隣接の河川敷まで医薬品を搬送し、受け渡し完了後、離陸地点まで帰還した。

ドローンは、LTE 回線を通じた遠隔制御にて無視界飛行かつ飛行ルート設定による自動飛行を行った。飛行中の安全確認は、常時、リアルタイム映像伝送システムを通じて行われ、医療機関の関係者が医薬品を受け取れているかの確認も実施された。搬送元と搬送先が適切にコミュニケーションを取りながら、医薬品の搬送ができることが確認された。

■SKY-NETWORK：孤立集落用に Web テレビ会議アプリを自治体に無料開放

(8月4日)

SKY-NETWORK 株式会社 (<http://sky-network.jp/>) (静岡県静岡市) は、九州北部豪雨災害での孤立集落の情報難民化を受けて、情報難民ゼロに少しでも近づけるための災害時支援サービスとして、Web テレビ会議アプリ「MEZONE (メゾン)」を自治体向けに無料開放することを決めた。

MEZONE は、同社が提供する地域防災放送システム「Regional Alert DIRECT (リージョナルアラートダイレクト)」放送や自治体からの緊急放送を住民のスマートフォンにリアルタイムで流すインターネット放送システムに実装している Web テレビアプリ「Web 集会所」を分離し提供するもの。

災害時では、固定電話や携帯電話の回線寸断や回線制限による混雑でつながらないことがあるが、そんなときでもインターネット回線は機能していることが比較的多い。インターネット Web テレビ会議を使えば、孤立集落や孤立避難所から災害地以外の安全な場所にいる不特定多数の人と対話する機会が広がるという。

そこで今回無料開放する MEZONE では、部屋数を 3

部屋 (1 部屋 25 名まで入室可) 提供し、アプリをダウンロードするだけで個人情報の登録や事前手続きなしで自治体が用意する目的の部屋に誰でも自由に出入りできるようにする。

一方 MEZONE 正規版では、自治体ごとに専用アプリ (専用会議室) を用意するが、今回の豪雨を受け、台風シーズンに向け早期提供を開始するため共用版を開放する。また、サービス開始時は Android 対応での提供となるが、今後部屋数の拡張と iPhone 対応を順次行っていく予定。

ビジネス動向-海外

■Pexip 社の「Pexip Infinity Fusion」がマイクロソフトの Skype for Business 認定を取得

(@Press: 8月7日)

Pexip AS(ペクシップ、<https://www.pexip.com/>) 社は、同社の提供するビデオ会議システム相互運用ソリューション「Pexip Infinity Fusion」がマイクロソフト社の「Microsoft Skype for Business Server」に正式に認定されたと発表した。

Pexip Infinity Fusion は、Skype for Business とのビデオ会議の相互接続を可能にするソリューション。Pexip Infinity Fusion によって、Skype for Business ユーザーは、ポリコム、シスコ、ソニーなど一般的な他メーカーのビデオ会議システムとのビデオミーティングおよび通話が行えるようになる。

この度、ビデオ会議システムを Skype 会議に直接参加させるゲートウェイモードを備えた Infinity Fusion の最新バージョンを開発することで機能を強化し、Pexip 社はマイクロソフト社の認定を得た。最新バージョンを使うことで、より容易にビデオ会議システムユーザーが Skype for Business ミーティングに参加できるようになるとしている。

なお、製品についての詳しい説明およびデモンストラーションは、国内正規販売代理店株式会社メディアプラス (<http://www.mediaplus.co.jp/>) にて対応している。

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

USB スピーカーフォン FLX UC 500

http://jp.yamaha.com/products/communication/revolabs/flx_uc_500/

■中古テレビ会議.com

テレビ会議システムをレンタルで!

Polycom/Sony/Cisco/Lifesize 対応

<http://chuko-tv-kaigi.com/?mode=f24?=cnar08152>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (8月から10月)

「失敗しない「Web会議・テレビ会議」の選び方 働き方改革セミナー」「従来比 1/3 のコストで導入できる” V-CUBE Box 体験セミナー」「営業生産性を上げるワークスタイル変革セミナー」など

会場 (東京・大阪・名古屋・札幌など)

詳細・申込: <https://jp.vcube.com/event/all>

■Skype for Business ビジュアルコミュニケーション活用術セミナー

日時: 8月23日(水)・24日(木)・25日(金)

各日 15:00~

会場: VTV ジャパン デモルーム (東京・大阪)

主催: VTV ジャパン株式会社

詳細・申込: <https://www.vtv.co.jp/seminar/1708vtv/>

■Skype for Business / Office 365 を活用した働き方改革セミナー

日時: 8月29日(火) 16:00~17:30 (受付開始 15:30)

会場: 品川シーズンテラス 20階 クロスキャットセミナールーム (東京 品川)

主催: 株式会社クロスキャット

詳細・申込: <https://www.cc-smart.jp/seminar-20170829/>

■インタラクティブ ホワイトボード (電子黒板) 体験セミナー ~進化したホワイトボードで会議を変える、働き方が変わる!~

日時: 8月29日(火) 13:30~17:00

会場: リコージャパン ViCreA 東京 ショールーム

主催: リコージャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/17K273.html>

■ワークスタイル変革 実践事例セミナー ~コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめるワークスタイル変革~

日時: 8月30日(水) 10:00~17:00

会場: リコージャパン ViCreA 東京 ショールーム

主催: リコージャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/17K230.html>

■待ったなしの働き方改革 【在宅勤務で生産性を上げる方法はコレだ!】 多様な働き方をマネジメントする成功事例をご紹介します

日時: 9月8日(金) 15:00~

会場: 秋葉原コンベンションホール

主催: エイネット株式会社

詳細・申込:

https://www.freshvoice.net/form/seminar_20170908/

※株式会社グリーゼ代表取締役江島民子氏の講演もあり。

■ワークスタイル変革 Day 2017

日時: 9月5日(火) 10:00~16:30 (受付: 9:40~)

会場: ソラシティカンファレンスセンター

主催: 株式会社リックテレコム

詳細・申込: <http://www.ric.co.jp/expo/wsd2017/>

※東京大学名誉教授 伊藤 元重 氏の講演もあり。

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2017年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2017年8月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp